

波乗り豪腕がサク裂！ 片橋幸貴が特別戦初優勝！



江戸川

7/16~21

G II

モーターボート大賞



着	人気	艇番	選手名	年齢	支部	今回成績	進出	ST
1	○	②	片橋 幸貴	36	滋賀	1411131	2	05
2	△	④	井上 一輝	30	大阪	3241212	4	12
3	◎	①	権藤 俊光	37	大阪	3311221	1	16
4	×	③	若林 将	40	東京	1311421	3	06
5		⑤	大澤 普司	50	群馬	311332	5	23
失		⑥	若林 樹蘭	21	東京	3142142	6	17
2連単 ②-④			2830円	8番人気	まくり			
3連単 ②-④-①			6170円	22番人気				

「東京支部VS全国選抜」のサブタイトルで争われたGII戦。当地の大看板・石渡鉄兵を欠いて、東京勢は当地副将格の大池佑来が地元の代表格。遠征勢は岡崎恭裕、新田雄史に当地巧者の平尾崇典らが有力者だったが…。大池は初日DRこそ制したが低調機に苦戦。岡崎は快速ムードだったが2日目DR1枠で痛恨のF。新田、平尾らも機出しに手を焼いた。予選をトップ通過し、準優を逃げてV戦1枠を手にしたのは大阪伏兵の権藤俊光。Eース23号機を味方にパワフルな捌ぎで魅了した準優までの走り。しかし、最終決戦をさらったのは…波乗り豪腕の片橋幸貴。イン権藤の仕掛けが甘くなった上を、片橋は鋭角な全速ターンで駆け抜け見事V。GII水神祭を達成し初のSG戦、来年若松のクラシックの出場権利を獲得した。

水面では少々の高波でも鬼のような全速戦、観戦者を選手でさえ驚嘆させる波風強者の片橋。しかし、陸の上ではカリリとした性格の爽やかな好青年だ。予選半ばで彼と話した時に「どのレースを優勝する！とか、SG出たい！とかそういうんは自分はないんですよ。自分の目標は『家族を幸せにする』と、目の前のレースを勝つ！だけ」と笑って話してくれたものだ。レーススキル特化型で機出しは少々の弱点でもある片橋だが「何なら出てなくてもいいんですよ。それで出てくる人に勝てたら楽しいし」というレーサー観。ペラ調整は少々苦手。タイトル欲も薄いが、楽しく明るく走りを全力で楽しむ。そういうプロスタイルもあっていい！滋賀支部屈指の快男児が、生き生きと走る姿に今後とも声援を送りたい。(野添)

シリーズ展開

現場記者の目

児島

7/2~7

主力が次々と脱落も…

最後は新田雄史がきっちり締めた！



G II

モーターボート大賞



着	人気	艇番	選手名	年齢	支部	今回成績	進出	ST
1	◎	①	新田 雄史	39	三重	2212131	1	07
2	×	④	上野真之介	36	佐賀	3322232	4	08
3		⑤	松田 祐季	38	福井	1323232	5	04
4		⑥	松尾 昂明	39	福岡	1253242	6	09
5	△	②	入海 馨	28	岡山	1224111	2	08
6	○	③	山口 達也	37	岡山	5411251	3	06
2連単 ①-④			550円	3番人気	逃げ			
3連単 ①-④-⑤			1920円	9番人気				

初日、2日目は12Rでドリーム戦が行われた。1stドリームでは丸岡正典がインの守田俊介をじまくりで快勝。2ndドリームは新田雄史がインから押し切り圧倒したが「スリットに向けての行き足も重く回転も出ていない」と機力は物足りない様子。2日目が終わって丸岡(負傷)、守田(病気)が帰郷した。3日目が終わった時点で新田はオール連対の成績で大きくリード。上野真之介、松田祐季、山口達也、入海馨、永井彪也、下條雄太郎が得点率上位。4日目が終わって新田、入海、上野が安定した走りで準優の1枠を手にした。新田、入海は逃げて快勝。山口は2コースを奪取して差し切った。優勝戦の1号艇を手にした新田は、山口の3カドにも動じることなく王道Vで今年3回目、通算45回目の優勝を飾った。

「児島のまくりキング決定戦」だったが、初日はドリーム戦の丸岡正典の2コースまくり1本だけだった。夏場の水面はスローのスタートが遅くなったり、バラつく傾向にある。そして最終日に向けて後半の潮位が低くなり、十分にまくりが決まる条件は整っていたが、やはりGII戦となれば内有利の傾向だった。初日の逃げは9本。2日目は8本。結果的にまくりは4本と少なめだった。シリーズで目を引いたのは山口達也だろう。「そんなにヒット離れに振った調整はしていない」と話しながらも、3日目は6号艇からインを取り切って2勝目。「同期の土屋智則、西山貴浩とクラシックに出たい」と意気込んでいた。優勝戦に駒を進めて、3カドから伸び気味ではあったが、イン新田雄史の牙城は崩せなかった。(S・O)

シリーズ展開

現場記者の目